

(別紙4)

平成22年度水資源功績者表彰受賞者と功績概要

[個人] . . . 5名

受賞者	功績概要
<small>えひえ くにお</small> 海老江 邦雄 (北海道)	網走湖水質保全対策検討委員会水質部会長、北見市水道水の断水に関する原因技術調査委員会委員長、常呂川の濁水に関する流域検討会座長などを歴任され、技術的知見から長年にわたり、水質環境改善の施策の推進に多大な貢献をされた。
<small>もりした</small> 森下 キミ (群馬県)	渡良瀬川におけるかんがい期銅の水質目標値監視のための採水業務を、昭和49年から平成21年まで従事され、水資源の安全確保にご尽力された。
<small>わたなべ さだもと</small> 渡邊 定元 (静岡県)	全国に先駆けて、列状間伐(3残1伐)モデル林を提案、指導し、水源涵養機能等に配慮した森林整備等の推進に貢献された。また、富士山域森林の水源涵養機能を概数予測する「富士山方式」の提唱や、富士山麓自然林復元活動を行うなど、水資源の保全・涵養に尽力された。
<small>すぎたに のぶひろ</small> 杉谷 信弘 (福岡県)	五ヶ山ダム水没対策協議会の会長として、補償問題等の解決や、水源地域整備計画の策定における、地域内での意見集約や調整等に尽力され、五ヶ山ダム建設の推進・水資源の開発促進に貢献された。
<small>みやもと ひろみつ</small> 宮本 博光 (実行委員会)	「水の日」及び「水の週間」の中央行事であるウォーターフェア東京やウォーターフェア隅田川レガッタ等の実施にあたり、草創期より、中心的な役割を担い、長年にわたり水資源行政の推進・啓蒙活動に貢献された。

[団体] ・ ・ ・ 6 団体

受賞者	功績概要
<small>なつ い がわつうみ けいかん</small> 夏井川 堤 の景観を <small>つく かい</small> 創る会 (岩手県)	夏井川周辺の環境整備・美化、上流での環境調査や間伐作業体験研修に取り組むほか、世代間協力による地域コミュニティ作りに取り組むなど、水源地域における水資源の保全・地域活性化に大きく貢献されている。
<small>せんたい</small> 仙台リバーズネット・ <small>うめだ がわ</small> 梅田川 (宮城県)	使用済み樽を再生利用した雨水タンク「仙台天水桶」や雨水浸透枳の普及活動を通じて、雨水の貯留・浸透の促進を図ることにより、下水道への負荷を低減するとともに、水資源の有効利用に貢献されている。
<small>なん こ せいそつ</small> 南湖清掃ボランティア (福島県)	南湖において、「池干し」清掃や地元小学校と連携した水質浄化プロジェクトを行い、水質の改善に貢献されている。さらには、大学研究者らと協働して、動植物・生態系の記録化も行っている。
<small>ひやつけん ひ ゆぐみ</small> 百間樋井組 (兵庫県)	昭和32年より、百間樋導水路のかんがい用水と水道水の共用利用を始め、長年にわたって、西宮市水道局と連携し、常時の巡回・点検・水利活動等に尽力され、良好な水源の確保に貢献されている。
<small>み ささおんせん かえる</small> 三朝温泉かじか蛙 <small>ほ ぞんけんきゆうかい</small> 保存研究会 (鳥取県)	三徳川流域において、かじか蛙の保護活動を通じて、広葉樹の植樹活動や、地域住民・観光客に対しても水環境保全の啓発活動を行い、水源地域の保全に大きく貢献されている。
<small>ふし の がわ けんりゆう まも</small> 樺野川の源流を守る会 <small>かい</small> (山口県)	樺野川源流の環境保全を目的として、土地を公有化するための募金活動等を実施するとともに、樺野川流域地域通貨連携促進検討協議会を立ち上げ、地域通貨「フシノ」の発行を通じて、行政、団体、商店が協働した流域保全活動を展開しており、水資源の保全だけでなく、地域の活性化にも貢献されている。